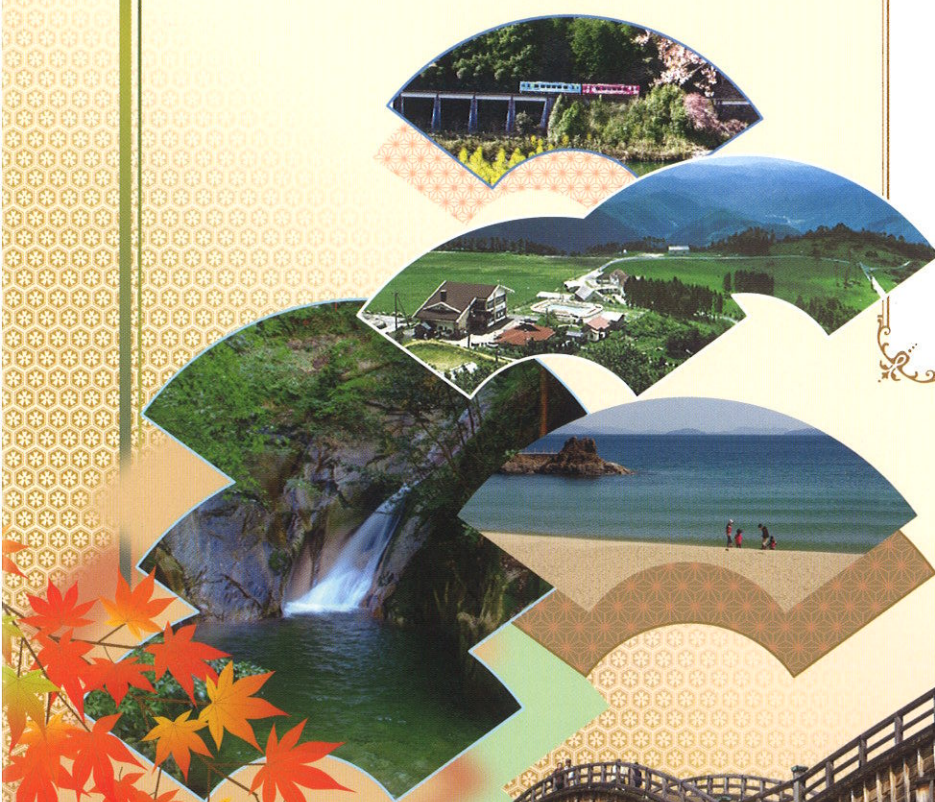


岩国市観光ビジョン



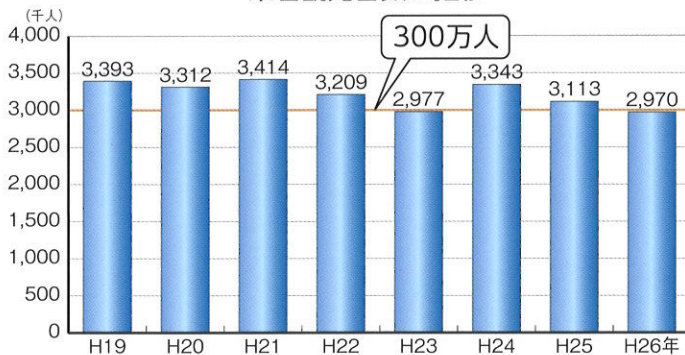
山口県岩国市

岩国市の観光

■岩国市の観光客数

岩国市は毎年約 300 万人の観光客が訪れている「山口県を代表する観光地」といえます。

来岩観光客数の推移



※平成23年3月11日東日本大震災発生、平成25年「日米親善デー」中止
(資料)山口県観光客動態調査

岩国市の観光客数の推移をみると、近年は約 300 万人～ 340 万人程度で推移しており、山口県内の市町別では下関市、山口市に次いで3位となっています。

平成 23 年は東日本大震災、平成 25 年は「日米親善デー」の中止などの影響による減少がありましたが、毎年約 300 万人が継続的に訪れている山口県を代表する観光地と言えます。

■岩国市を訪れた観光客の滞在時間

岩国市を訪れる観光客の約 9 割は日帰りであり、その滞在時間は 4 時間以下となっています。

来岩宿泊・日帰り観光客の割合の推移



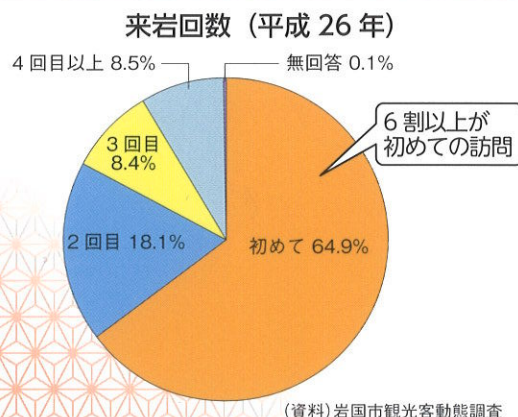
(資料)岩国市観光客動態調査

岩国市（調査は岩国地域を訪問した観光客のみ）の観光客宿泊率は 1 割未満であり、宿泊数が少ない状況にあります。

宿泊しない人の滞在時間も約 9 割が 4 時間以内となっており、通過型の観光地となっていることが一番の課題として挙げられます。

■岩国市の来訪経験

岩国市を訪れる観光客の 6 割以上が初めての訪問であり、リピーターが少ない状況です。



(資料)岩国市観光客動態調査

来岩回数が「初めて」と回答した人の割合は 6 割以上となっており、リピーターが少ないことが課題といえます。

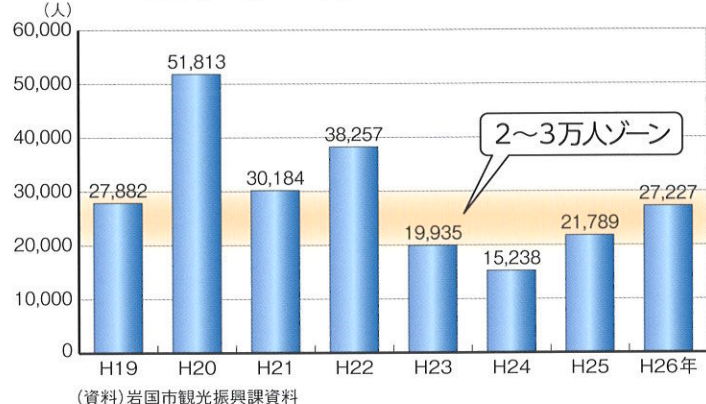
また、岩国市内には錦川を中心とする自然資源や、日本酒の酒蔵、広島東洋カープ由宇練習場など、愛好家が遠くから度々訪れる可能性の高い様々な資源がありますが、それらの活用は不十分であるといえます。

の現状と課題

■外国人観光客

外国人観光客は2～3万人程度で推移しており、少ない状況です。

岩国市を訪れる外国人延べ観光客数の推移



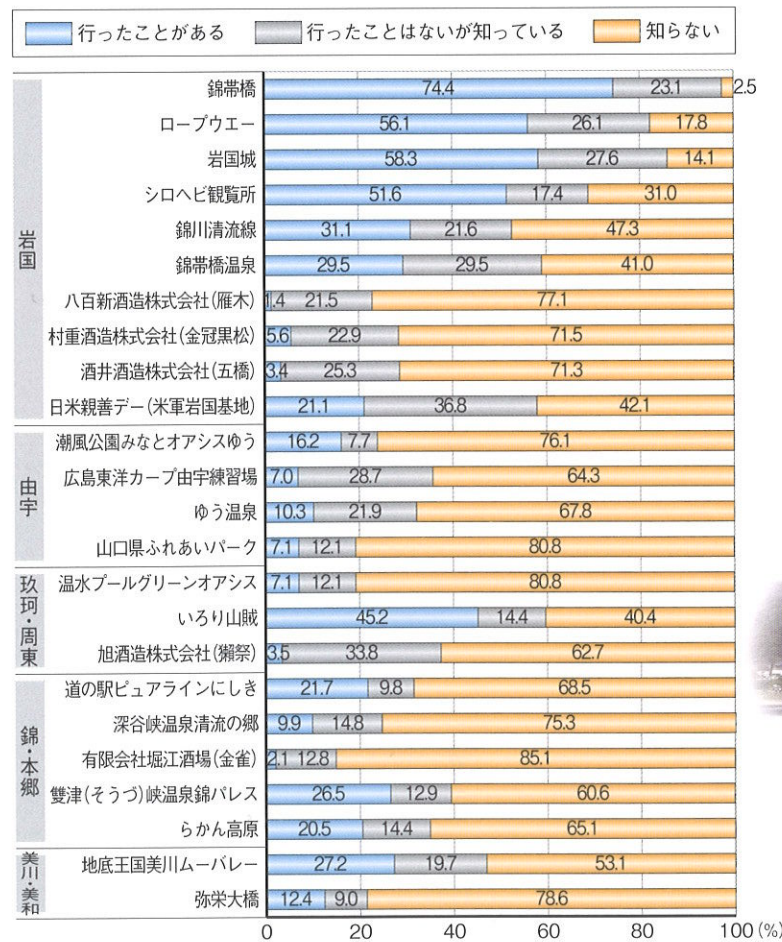
国を挙げて更なる外国人観光客（インバウンド）誘致に取り組む中、岩国市における外国人観光客数は2万7227人（平成26年）と少ない状況にあります。

近隣に4つの世界遺産（原爆ドーム、厳島神社、石見銀山、明治日本の産業革命遺産）を持ち、岩国錦帯橋空港の開港を契機として、外国人観光客の増加に向けた施策展開が求められます。

■岩国市の観光資源の訪問率・認知度

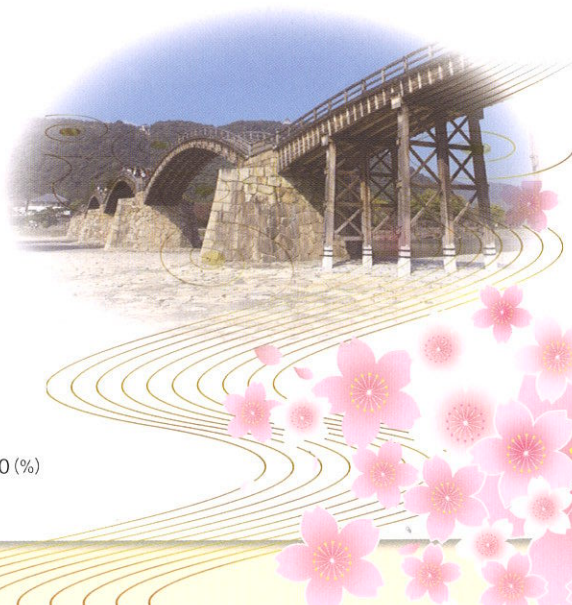
錦帯橋周辺の訪問率や認知度は高くなっていますが、錦帯橋周辺以外の訪問率や認知度は低い状況です。

岩国市内観光資源の訪問率・認知度（岩国宿泊客）



宿泊観光客アンケート調査によると、錦帯橋周辺以外の地域の訪問率、認知度は低くなっており、様々な資源の知名度の向上が課題といえます。

また、情報通信技術の進展に伴い、観光客のインターネットを通じた観光情報収集が増加しており、個人客に対するインターネットを利用した情報発信が重要です。



観光ビジョンの基本理念

「観光」という言葉の語源は「国の光を^み観る」とされており、地域の優れた「光」を観ることが「観光」と言えます。

岩国市の優れた「光」としては、吉川家を代表とする先人が創りあげた世界に誇れる歴史・文化、清流錦川を代表とした豊かな自然等、地域に根差した多種多様な資源や風土があります。

この「光」を観せるため、そこに暮らしている私達が、その素晴らしさを再認識するとともに、新しい魅力を創造し、愛着と誇りを持って未来へ伝えることが必要です。

岩国市の「光」に対する愛着と誇り、またそれを伝える姿勢を市民の美学と捉え、この美学を地域に根づかせ、未来を拓いていくことが、岩国市が目指す観光の姿です。

このような考え方にに基づき、「岩国市観光ビジョン」の基本理念を右のように設定します。

— 岩国市観光ビジョンの基本理念 —

『未来への創造』

岩国市民が、
岩国の魅力を再認識し、
新しい魅力を創造し、
愛着と誇りを持って
未来へ伝える。

観光ビジョンの基本戦略

観光ビジョンの方向性ごとに2つずつ、計6つの基本戦略と、横断的・総合的視点としてインバウンド（訪日外国人観光客）等のターゲットに応じたプロモーション、「食」資源の開発・活用を設定します

目標値 (単位:万人)

指標名	現状 (H26年)	中間目標 (H30年)	目標 (H34年)
観光入込客数	297.0	400.0	420.0
外国人観光入込客数	2.7	8.0	10.0
錦帯橋入橋者数	62.4	81.6	85.0

3つの方向性

1

錦帯橋周辺などの
顕在資源を新たな発想で
“みがく”

2

市域の潜在資源を
新たな活用で
“いかす”

3

一体的な観光振興に
向けた新たな絆で
“つなぐ”

6つの基本戦略と 2つの横断的・総合的視点

(1) 錦帯橋周辺地域の魅力向上戦略

(2) 市域全体周遊促進戦略

(1) 自然の魅力活用戦略

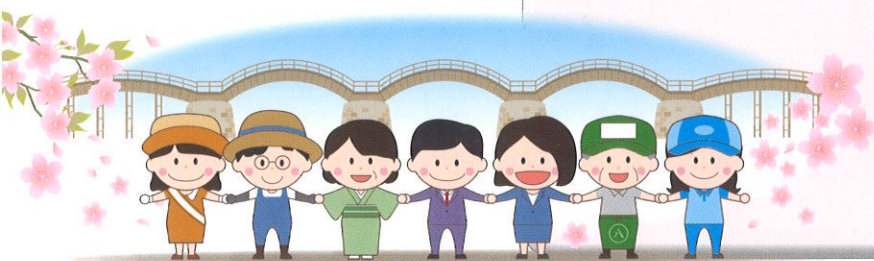
(2) 多様な趣味・嗜好への対応戦略

(1) “おもてなし”態勢構築戦略

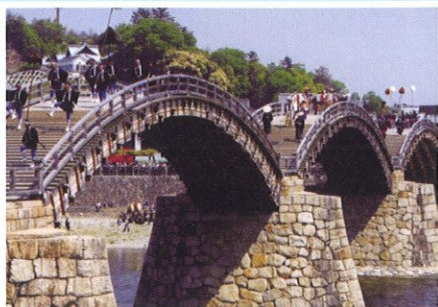
(2) 広域連携による情報発信戦略

<横断的・総合的視点>

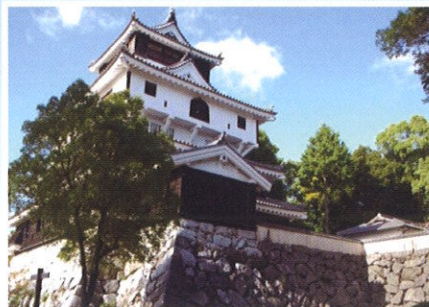
- ① インバウンド等ターゲットに応じたプロモーション
- ② 「食」資源の開発・活用



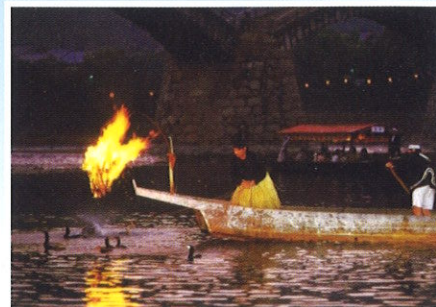
錦帯橋周辺を中心とした岩国市の観光資源を新たな発想で魅力を磨き、より多くの人の来訪、より長い時間の滞在、より多くの消費を促します。



錦帯橋



岩国城



錦帯橋の鵜飼

戦略① 錦帯橋周辺地域の魅力向上戦略

現状・課題

錦帯橋の入橋者数は年間約 70 万人であり、全国から観光客が訪れています。しかしながら、宿泊割合は 1 割未満、日帰りの滞在時間は 4 時間以内が約 9 割であり、滞在時間の延長、宿泊割合増加が課題として挙げられます。

また、訪日外国人観光客の増加が見込まれる中、錦帯橋周辺地域における外国人観光客の受入態勢整備や公共交通アクセスの向上が求められます。

戦略

平成 26 年 3 月に策定された「錦帯橋を中心とした錦川両岸地域のまちづくり将来ビジョン」をもとに実施する街なみ環境整備事業を推進し、誰もが「住んでよし、訪れてよし」と感じることができる魅力あるまちづくりを一体的に進めます。

また、錦帯橋周辺地域におけるソフト事業として体験メニューの充実や祭り・イベントの実施、岩国城の魅力向上に関する検討を進め、錦帯橋周辺の魅力を高めることで、観光客の滞在時間の延長、宿泊客の増加をめざします。

また、米軍岩国基地と連携した市内資源調査や言語対応状況調査など、基地内住民をモニターとして外国人視点での魅力の再発見を行い、外国人観光客の受入態勢の整備につなげます。

戦略② 市域全体周遊促進戦略

現状・課題

岩国市には、錦帯橋周辺以外にも各地の拠点となる資源がありますが、それぞれが点在しており、連携が不十分であることが課題として挙げられます。

個々の魅力を創出するとともに、相互の連携を強化し、市域全体の周遊を促進することが求められます。また、地元産を求める観光客が多く、地域内の経済循環を高めるためにも、地産地消の推進など観光と農業の連携が求められます。

戦略

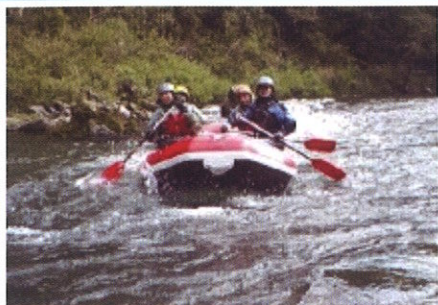
個別施設の魅力向上のために、個々の施設ごとにターゲットを設定し、ターゲットに合う周辺資源を活用し、集客を図ります。

また、観光客が訪問地を決定する要因として、目的地の魅力とともに、目的地周辺の観光資源や「食」の魅力が挙げられます。産直施設や地元産食材を使った飲食施設などを含めた周遊マップやWEBページの作成などによる立ち寄り資源の可視化を行います。

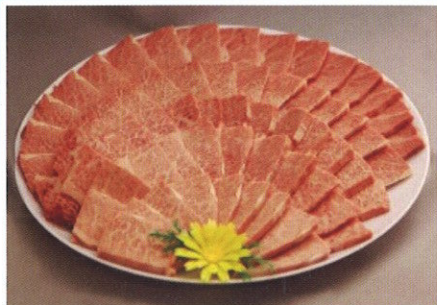
また、錦帯橋やいろいろ山賊等の集客拠点における周遊マップの配布など、多様な資源や「食」の魅力のPRを行い、「立ち寄り型観光」といえる目的地以外の訪問地点を増やすことにより、訪日外国人観光客を含む来岩観光客の市域全体の周遊を促し、滞在時間の延長につなげます。

方向性 ② 『市域の潜在資源を新たな活用で“いかす”』

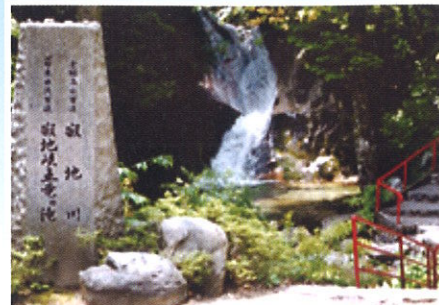
豊かな自然資源や、全国から愛好家が集まる隠れた資源を活かし、情報発信と「おもてなし」によりファンやリピーターを獲得します。



ラフティング



高森牛



寂地峡

戦略① 自然の魅力活用戦略

現状・課題

岩国市内には、自然資源が多く、キャンプ、登山、海水浴が楽しめる場所が数多くあり、特に錦川周辺は、県外から多くの人を訪れています。しかしながら、錦川沿いの駐車場や休憩場所などが少なく、錦川を楽しむ機会の提供ができておらず、また錦川清流線からの美しい景観を確保するための森林の整備も必要となっています。

戦略

「錦川を楽しむ」を合言葉に、自然体験プログラムの開発、景観に配慮した錦川清流線沿いの森林整備など、自然資源を楽しむための環境整備を推進するとともに、飲食施設の誘致や休憩場所の設置、アウトドア特集ホームページの開設、アウトドアショップ等と連携したプロモーションにより、錦川周辺を中心に、市内の自然資源へのアウトドア客の誘客を図ります。

また、米軍岩国基地との連携による外国人を対象としたアウトドアプログラムの開発による外国人観光客の誘客や、ターゲットを小学生～高校生に絞った教育効果の高い自然体験プログラムの開発による体験型修学旅行の誘致を進めます。

戦略② 多様な趣味・嗜好への対応戦略

現状・課題

岩国市には、徐々に知名度の高まりを見せている日本酒の酒蔵や、高森牛などの食資源があります。

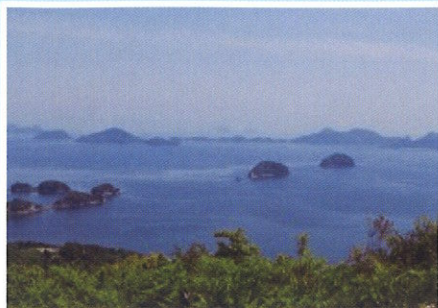
また、城下町の歴史がある岩国市は、吉川史料館、岩国徴古館など歴史資源が豊富です。その他、広島東洋カープ由宇練習場、日米親善デー（米軍岩国基地）、錦帯橋ロードレースなど愛好家・ファンには魅力的な資源がありますが、一般的な認知度は低いことが課題といえます。

戦略

一般的な認知度は低いものの、愛好家・ファンにとっては魅力的な資源については、「それぞれの愛好家・ファンにとっての岩国市」となるよう、それぞれのファン層に対して、専門雑誌やWEBサイト、専門店を通じた「尖った」プロモーションを行います。日本酒など食資源、カープ、ランニング、サイクリング、歴史、ミリタリーなど、様々な切り口で岩国市の魅力を再発見し、新たなイメージ形成を図り、新たな観光客の誘客を図ります。

また、定番資源との連携により、岩国市内の滞在時間の延長につなげます。

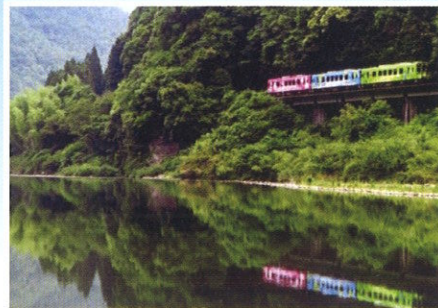
岩国市の観光関係者が手を繋ぎ、一体となって観光振興を進め、周辺地域とも連携し、市民が誇りと愛着を持てる観光のまちづくりを行います。



海（柱島）



山（らかん高原）



川（錦川）

戦略① “おもてなし”態勢構築戦略

現状・課題

観光客の受入にあたり、市内観光事業者の“おもてなし”意識の醸成は不可欠です。観光業の振興のためにも、観光人材育成、受入態勢の充実が求められます。また、岩国市内の観光に関係する様々な組織の連携不足が課題として挙げられ、一体的な観光振興を行うための組織の設置や協調態勢の確立が求められています。

戦略

市内観光事業者の“おもてなし”意識の醸成に向けて、接客・接客や外国人対応についての研修、指差し会話ボードなどターゲットに応じたおもてなしツールの作成を行い、観光人材の育成、受入態勢整備を進めます。

また、一体的な観光振興に向け、観光関係者が意見交換できる場づくりを行い、情報の集約・発信を行う仕組みを構築します。その上で、マーケティング、滞在コンテンツづくり、プロモーション、来訪者に対するワンストップ窓口など、岩国市の観光振興の中核を担う新たな観光推進組織を設立し、地域と来訪者、双方の満足度を高める取組を行います。

戦略② 広域連携による情報発信戦略

現状・課題

岩国市は、観光客の視点からは「広島・宮島」との結びつきが強い地域となっています。

また、山口県内の近隣地域とも連携できれば、さらに効果的な観光地になると考えられます。岩国錦帯橋空港の観光客利用を増加させるためにも、近隣地域と連携したプロモーションを行い、広域的な集客力を向上させる必要があります。

戦略

首都圏に向けたプロモーションにあたっては、萩・津和野や県内近隣観光地とともに、世界遺産である厳島神社（宮島）、原爆ドーム（広島）との近接性をPRし、岩国錦帯橋空港の観光利用を促し、首都圏からの誘客を図ります。また、観光地間のスムーズな移動ができるよう、JRやバス会社と連携し、広島、宮島（及び宮島口）とのアクセス面での向上を図ります。

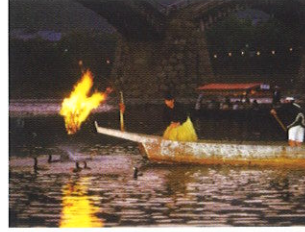
また、外国人観光客誘致に向けては、訪日旅行者数の多い中国、韓国、台湾など東アジアからの誘客を図るとともに、近接する広島市や廿日市市への欧米系外国人の割合の高さや米軍岩国基地の立地などを活かした欧米系外国人観光客の誘致を進めます。

岩国市の主な観光資源

岩国市には錦帯橋をはじめとして、多様な観光資源が点在しています。また、鉄道や高速道路が通っており、岩国錦帯橋空港の開港により更に交通アクセスの利便性が向上しています。



錦川清流線



錦帯橋の鶏飼



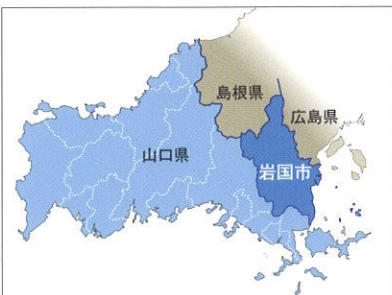
岩国城



錦帯橋



寂地峡



潮風公園みなとオアシスゆう

お問い合わせ先：岩国市産業振興部観光振興課
 〒740-8585 岩国市今津町1丁目14番51号
 TEL(0827)29-5116 FAX(0827)22-2866

公式観光ホームページ

<http://kankou.iwakuni-city.net/>